# 【小中学校　国語】

## 単元の指導計画における観点別評価（評定に用いる評価）の位置付け　〈例〉

### 評　価　規　準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①【　　】ている。 | ①（領域名：〇〇こと）において、【　　】ている。 | 〇　進んで、《 A 》【　　】し、《 B 》学習の見通しをもって、《 C 》【　　】している。《 D 》 |

※単元に位置付けた**指導事項の文言**を基本とする。【　　】内は指導事項の文言。
※指導事項の一部を用いる場合もある。

※単元の時間数や児童生徒の実態から身に付けさせたい事項を、それぞれ1～2事項選ぶ。（①、②とする）
※選んだ指導事項の中から、特に身に付けさせたい事項を選ぶ。（→主体態の《 B 》に入る）

【知技①】
【知技②】

※太線については、特に身に付けさせたい指導事項
※それぞれの②については、評価規準として設けないこともある。

【思判表①】
【思判表②】

A：粘り強さ→「積極的に」、「進んで」、「粘り強く」 等
B：知識・技能、思考・判断・表現において、**特に**粘り強さを発揮してほしい**指導事項**
C：自らの学習の調整→「見通しをもって」、「学習課題に沿って」、「今までの学習を生かして」 等
D：当該単元の具体的な**言語活動**

【主体態】
・粘り強さ
・自らの学習の調整

## はばたく群馬の指導プランⅡ　単元のつくり方

### 過程と基本的な学習活動

**つかむ**

1　単元の課題を把握する。

◇教材文やモデル文等と出合い、単元の学習に興味や関心をもつ。

【単元の課題】
〈必要感のある言語活動〉

◇既習事項や実生活の体験等を想起しながらゴールの姿に向かうための大体の流れをつかむ。

**追究する**

2　単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

単位時間
【めあてをつかむ】
◇各単位時間のめあてに対して、個で考える。
◇ペアや少人数での交流活動を行い、互いの考えを伝え合う。
◇学級全体で、各グループの交流活動で出された意見や考えについて確認し合い、新たな気付きをもつ。
【まとめ・振り返りをする】

単位時間
単位時間
単位時間

**まとめる**

3　単元の学習を振り返る。

◇単元の課題について、学ぶ前と後との変容を自覚するとともに、今までの学習のポイントを学級全体で共有する。
◇学んだことを、他の学習や日常生活でどのように活用できるかを考える（一般化）。

単元全体の振り返り

### ＜例＞　評　価　の　位　置　付　け

※指導事項が、【知技①】、【思判表①・②】で、特に身に付けさせたい指導事項が【思判表①】の場合

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的…態度 |
|---|---|---|
| 「つかむ過程」では、【単元の課題】に対しての児童の実態をつかむ。（【知技】【思判表】については既習事項の定着状況を確認することもある。） | | |
| ※1【知技①】 | 【思判表①】 | 【主体態】見通し |
| 単位時間 ※各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって変わります。※学習状況を見取る時間は指導計画によります。 | | |
| 【知技①】 | 【思判表①】 単位時間 | 【主体態】学習状況の確認 問題の追究 |
| 単位時間 | | |
| | ※3 記【思判表②】 | |
| ※2 記【知技①】 | 記【思判表①】 | 【主体態】記 学習状況の確認 単元での学び |

※1で、学びの前の児童生徒の力を見取り、各単位時間で指導・支援を行い、※2で、記録に残す評価をする。「追究する過程」で行うこともある。（【知技】【思判表】同様）

★はばプラⅡで示す「問題解決的な学習」の単元構想でないと、評価規準に示す学習状況の評価がしにくくなります。**必要感のある言語活動の設定**が主体的・対話的で深い学びの授業の鍵を握ります。

**「指導に生かす評価」（学習状況を見取る）**

全ての単位時間において、「ねらい」に即し，児童生徒の学習状況を見取り，必要に応じて，教師が指導，支援するなどして，その改善を図ります。

**「指導と評価の一体化」の充実**

**「評定に用いる評価」（評価したことを記録に残す）＝記**

・目標の実現状況が児童生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
・国語科の知識・技能、思考・判断・表現は、継続的に指導を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での記録が多くなることが考えられます。
・※3のように、既習事項の定着の確認など、「まとめる過程」でない場面でも記録に残す場合もあります。